

# みずのわ

学校だより  
【第8号】  
令和3年10月29日(金)  
石巻市立石巻小学校

## 【今のうちに・・・】

秋が深まり、朝晩冷え込んでまいりました。それもそのはず来月7日は、二十四節季で言うところの「立冬」です。この文字を読んだだけで寒さを感じてしまいそうです。

今月は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きましたので、修学旅行をはじめ様々な行事を安心して行うことができました。今後の感染状況については、見通しが付きませんので、今のうちに、「合唱」や「調理実習」など、これまでできなかった活動をやっていきたくて考えております。(詳しくは、本校ホームページに本日掲載の「リバウンド防止徹底期間終了に伴う本校の対応について(お願い)」を御覧ください。)

## 【学力について】

### (全国学力・学習状況調査の結果)

さて、今回は少し固めの話になりますが、先日、今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。本校は、下記のように、国語・算数ともに全国平均の正答率を上回りました。

(平均正答率 %)

教科	本校	全国	宮城県	石巻市
国語	72	65	63	60
算数	71	70	68	64

悪いよりは、当然良い方がいいのですが、私個人としては、この数字をあまり過敏に比較すべきではないと思っています。しかし、世の中は、この平均正答率の値をもってして、「学力値」であるがごとく言ったり、県や学校の優劣を決め付けたり、大きな勘違いが横行しているような気がしてなりません。

だいたい、平均正答率で県や学校を比較していたら、これはもういつまでたってもキリがありません。仮に、日本全国の学校の子供たちが勉強を頑張って、全国平均正答率が98%まで上がったとします。石巻の子供たちも頑張ったのですが残念ながら96%止まり。96%という高正答率であっても、全国平均以下と言われ、さらに頑張らせなければならない、というイタチごっこがいつまでも続くのです。

だから、平均正答率を比較しての云々は、あまり意味がないと思うのです。私に言わせれば、「今回のテストに対する期待値は70%です。70%以上であれば、前年度の内容がほぼ習得していると判断してよいでしょう。」というように、期待値を設けて取り組ませればよいと思うのです。実際に石巻市では学校ごとに毎年期待値を設定しており、本校の目標期待値は70%に設定していました。それを全面に出せばよいと思うのです。そうすれば、個人としても、学校としても、市町村としても、目標がはっきりするので、平均正答率という追いかけても追いかけても追いつきそうにないものを追わなくてよいと思うのです。

そして、何より大切なことは、この結果を結果だけで終わらせることなく、学校としても個人としてもきちんと考察し、対策を講じ、子供一人一人の力を伸ばし、補うことだと思うのです。6年生児童の保護者には、調査結果を踏まえた本校の今後の取組について説明文書を配布しておりますが、学校全体としても子供たちがより成長できるための取組を職員一同、知恵を出し合い、実践していきたいと思えます。

### (学力の定義)

そもそも、文科省は、この学力・学習状況調査に対して、

測定できるのは学力の特定の一部である。学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響に十分配慮を行うこと。

としています。

しかしながら、数値で表せるものは、比較対象になりやすいために、マスコミも含め、競争的な構図が作られてしまったのではないかと思います。

ところで、文科省の言うところの「学力」とは何なのか。その「学力」の前に、学校教育において、子供たちに付けるべき力を一言で言うならばそれは何であるのか・・・それは「生きる力」です。

その「生きる力」は次の3つの要素で構成されています。

- 確かな学力 (知)
- 豊かな人間性 (徳)
- 健康・体力 (体)

そして、このうちの「確かな学力」を構成する要素が、

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力
- 学びに向かう力、人間性

です。

この学力3要素に対して「全国学力・学習状況調査」では、知識や思考力などは調査できるものの、学びに向かう力などを測定することはできません。だから、文科省が言うように、この調査で測定できるのは学力の特定の一部なのです。

私は、このまま数値化できるものだけの比較が進めば進むほど、「生きる力」の「徳」の部分 (私はこれが非常に大事だと思っている)、つまり数値化の難しいものが疎かになっていくような気がしてなりません。

どんなに学力が高くても、それを犯罪などの間違った方向に使ってしまったては何のための学力なのか分かりません。「知」を支えるものは、「徳」であり「体」であり、本校の場合はそれに「食」も併せ、この4つの力が一体となって人間形成できるような教育活動を私は展開していきたいです。

来月は、久しぶりの学習参観を実施いたします。どうぞ、テストの点数では分からない、お子さんの「学びに向かう姿勢」などを御覧いただければと思います。

(校長／川田知宏)



よるをすごすぼうしをかぶったガイコツ(貼り絵) 佐藤結音 作